



館山市議会議員 森 正一 活動報告(第28号)

発行日：平成30年4月9日
 発行者：もり正一 後援会(討議資料)
 連絡先：館山市八幡277-19
 TEL：090-2652-3218
 ホームページ：http://www.awanew.com

【プロフィール】

- ・昭和42年5月17日生まれ、50歳
- ・北条小、三中、安房高、東北大学工学部卒
- ・館山市議会議員、現在2期7年目
- ・文教民生委員会委員長
- ・たてやま21・緑風会会派代表
- ・北条FC代表、館山市サッカー協会監事

はじめに

平成30年第1回定例会が2月23日から3月23日の会期で開催されました。行政一般質問では「小児科医療体制の充実」、「子どもの季節性インフルエンザ予防接種の助成」、「第三中学校の耐震化」などについて質問しました。また、当初予算質疑におきまして、「防災行政無線整備事業、および、安全安心情報配信業務委託料」に関連して、2月25日に発生した、市内にある薬物依存症の更生施設で発生した逃走事件についての対応について質問しましたので、平成30年度各会計当初予算、その他とあわせてご報告いたします。

行政一般質問における質問・回答要旨・所感

(質問1)子育て支援について

【その1】小児科医療体制の充実について

Q1. 市内医療機関における、小児医療体制の現状・問題点について説明願います。

A1. 市内には9ヶ所小児科の医療機関があり、安房地域医療センターでは専門医による外来診療が行われており、医師不足などは生じていない。小児医療体制の問題点については、県全体としては、人口10万人当たりの小児科医の数は9.5人であり、全国平均の11.9人を大きく下回っているほか、地域によっては小児科医が偏在しているとの現状分析結果がある。また、小児科医の疲弊を起因とした小児科医不足などの理由で、小児科を標榜する病院が減少しており、一部地域では小児救急医療体制の確保が困難な状態にある。

Q2. 夜間・休日における小児救急診療体制の充実について説明願います。

A2. 館山市を含む安房地域には亀田総合病院があり、小児医療の二次・三次救急医療機関として重篤な小児患者の受け入れを行っており、館山市から1時間以内に行ける体制となっている。また、夜間に急に子どもの具合が悪くなったときなどの相談先として、県が実施している「#8000」事業、公益社団法人日本小児科学会によるウェブサイト「こどもの救急」の周知に努め、保護者の不安解消や救急医療の利用の適正化に向けた取組を進めていく。



【その2】子どもの季節性インフルエンザ予防接種の助成について

Q1. 市内幼稚園、小中学校における、今年度のインフルエンザの罹患、学級閉鎖の状況、また、幼稚園等入園前の乳幼児の罹患状況について説明願います。

A1. 市内の公立幼稚園6園では、園児約290人中2月16日までに84人の園児がインフルエンザにより欠席し、学級閉鎖は4学級であった。小中学校については正確な人数は把握していないが、71学級で学級閉鎖になっており、発生件数は昨年と比較し3.5倍となっている。なお、幼稚園入園前の乳幼児については、市内全体では把握していないが、公立保育園、および、認定こども園における0歳児から3歳児までの園児およそ270人中、2月16日時点までに77人がインフルエンザで欠席している。

Q2. 近年、子どもに対する季節性インフルエンザの予防接種費用の一部助成をする自治体が増加しているが、館山市においても助成を検討すべきではないか。

A 2. 県内における助成の実施状況を確認したところ、浦安市、御宿町、長生村などの7つの市町村で行っているが、子どもの季節性インフルエンザ予防接種は現段階では予防接種法上、任意の予防接種であり、具体的な助成については考えていないが、引き続き効果の検証などの国の動向を注視し、助成の必要性について検討していく。

(所感) この4月より安房地域医療センターにおいて常勤の小児専門医が配置され、また、安房医師会を中心とした医療関係機関では、今後、小児医療のさらなる充実を進めていくとの説明がありましたが、市内には安房地域医療センターがあり、二次救急指定病院として365日24時間体制で診療を行ってはいるものの、子どもの夜間・休日における救急外来に関しては、小児科の専門医がいないことから、鴨川の亀田総合病院まで行かなくては診てもらえないというのが現状です。小児科や産婦人科の医療現場では、医療事故による訴訟リスクの高さや過酷な勤務状況により、特に地方では医師の確保が難しい状況にあります。そこで、館山市内における夜間・休日の小児救急外来体制を確保するために、市や市民、議会としてできる方策があるのか伺ったところ、「兵庫県丹波市の県立柏原病院における小児科閉鎖の危機を救った、『県立柏原病院の小児科を守る会』の住民運動による成功事例がある。これはマスコミ関係者や保護者が会を組織し、小児医療現場の過酷な状況をみんなが知るところから始まり、これらの活動を通じて、数年後には小児科医の数が増える状況に至った。このように、まずは我々市民、関係者が医療の現場を知る事が小児医療体制の充実の第一歩であり、今後、関係者を含めた学びの場を企画していきたいと考えている」とのことでありましたので、今後の展開に期待するとともに、議会としてもできる限りの協力していきたいと思います。

また、2017年度の子どものインフルエンザの流行に関して、独自にアンケート調査を実施したところ、下の表1の結果が得られました。これによると、予防接種を受けた場合は4人に1人、受けなかった場合には2人に1人が罹患し、罹患したお子さんの中で比較すると、接種をしない方が2倍以上罹患しやすいという調査結果が得られました。統計学的に有効なデータかどうかは分かりませんが、予防接種の効果はかなりあることが推察されます。大流行した平成29年度こそ予防接種の効果を検証すべきであり、予防接種の助成をする判断材料となるよう、しっかりとアンケート調査を行うことを要望しました。今後も引き続き、インフルエンザ予防接種の助成を含め、子育て支援の充実を求めて参ります。

表1. インフルエンザ罹患調査(2017-2018シーズン)

	受けて罹患した	受けて罹患しなかった	受けず罹患した	受けず罹患しなかった
人数(合計143人)	19	54	40	40
全体に対する割合	12.4%	35.3%	26.1%	26.1%
接種した人の中での割合	26.0%	74.0%	-	-
接種しなかった人の中での割合	-	-	50.0%	50.0%
罹患した人の中での割合	32.2%	-	67.8%	-
罹患しなかった人の中での割合	-	57.4%	-	42.6%



(質問2) 第三中学校の耐震化について

Q 1. 平成30年度一般会計当初予算に、第三中学校整備工事基本設計業務委託が計上されていますが、耐震化の結論として「建替え」に確定したのでしょうか。

A 1. 校舎の耐震化対策については、有利な財源を確保した上で、校舎を建て替えることに取り組んでいく。

Q 2. 設計が予算計上されたということは、有利な財源確保の目途がついたのでしょうか。

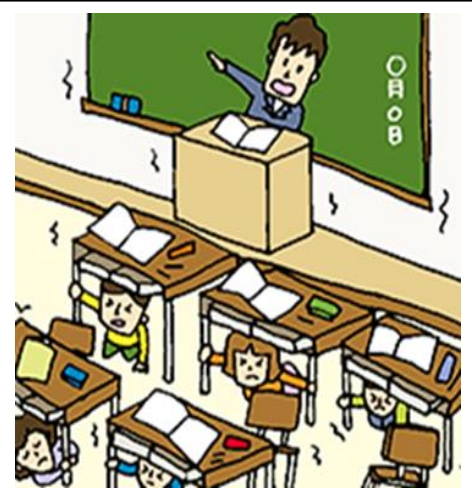
A 2. 有利な財源の確保については、現段階では有利な財源の確保に向けて調整中であり、引き続き鋭意努力していく。



Q 3. 震度6強以上の大規模地震発生時における、校舎の被害想定について、また、生徒や職員の最善の避難方法についての検討は行なっているのでしょうか。

A 3. 震度6強以上の地震発生時の被害想定については、第三中学校は「構造耐震指標」であるIs値が0.33で、国が示す3段階の耐震基準の真ん中にある。また、生徒や職員の避難方法については、揺れている最中は第一次避難として机の下等にもぐり、自分の身を守る行動をとり、揺れが収まり、避難経路の安全が確保された後、第二次避難として、速やかにより安全な場所に避難する。現状、これが大規模地震発生時における最善の避難方法と考えられ、第三中学校でもこのような避難訓練を行っている。

(所感)設計の予算計上はしていますが、有利な財源確保ができない場合には、再度検討するようであり、これまでは、平成29年度末までに結論を示すとのことでしたが、最終的な結論に達するまでにはまだまだ時間がかかりそうです。また、被害想定や避難方法については専門家の意見を取り入れるなど、調査や研究は何もしておらず、生徒や職員の生命や身体の安全に対する危機意識の欠如、危機管理の甘さを感じます。今後、被害想定や最善の避難方法について、専門家を招聘して調査研究することを求めました。引き続き、第三中学校の早期耐震化の完了、生徒や職員の生命・身体の安全確保対策について強く要望して参ります。



机の下にもぐっている間に…

↓
こうになってしまったら…



平成30年度当初予算質疑

【防災行政無線整備事業、安全安心情報配信業務に関連して】

Q 1. 2月25日に発生した、市内にある薬物依存症の更生施設からの逃走事件における市の対応について、なぜ安心安全メールによる市民への情報伝達が、事件発生後12時間以上経過した午後10時過ぎになってしまったのでしょうか。また、配信内容が非常に分かりづらいものでしたが、この点についてどのように考えているのでしょうか。

A 1. 館山警察署から担当課にメール配信の依頼が来たのが、逃走後およそ9時間経過した午後8時ごろであり、発生直後に依頼があれば、市の内部で協議をした上で配信ができたものと考えている。また、今回の件は市としても初めてのケースであり、内容には躊躇したところがあったが、注意喚起ができると考えて配信した。市としても至らないところがあったが、今回の反省点を踏まえ、警察署と話し合いを進めているところである。

Q 2. 配信された安心安全メールは危機感や重大性を強く感じられる内容ではなかったが、市民の生命や、身体に危害を加えられる可能性についての認識はあったのか、また、この件について、なぜ防災行政無線を使用しなかったのか。

A 2. 逃走したということは尋常なことではないという認識はあったが、逃走者がどういった状況なのか分からず、注意喚起という視点のみで配信せざるを得ない状況であった。今回の件を教訓として、どうしたら受信者側が分かりやすい配信内容になるかについても、近々、警察署と協議することになっている。防災行政無線とメール配信でワンセットとして考えられるが、今回の件については、防災行政無線を流す事により、逃走者に刺激を与えてしまい、思わぬ事態になる可能性があるという助言が警察署の方からあったため、メール配信のみとしたという経緯である。また、今回の件を受け、庁内の連携や対応を迅速にするための仕組みを強化した。具体的には、市民の安心安全を脅かす案件が発生した場合、対応する部署が流動的で、かつ、多方面からの情報収集が必要であるため、部や課の

枠組みを超えた『安全安心会議』を構成した。メンバーは副市長と7人の部長を中心メンバーとし、必要に応じて関係する部署の担当が加わる。

(所感)平成27年9月に埼玉県熊谷市で発生した、ペルー人男性による「熊谷6人連続殺人事件」では、周辺住民への情報提供がなかったことが被害拡大につながったと指摘する声があります。このことを受け、警察庁が平成27年の10月末、各都道府県警察や各地方機関の長に「連続発生のおそれのある重要凶悪事件への対応の強化等について」という通達を出しています。この通達の中で、連続発生を防ぐための情報提供として、インターネットの活用による情報発信や防災行政無線による広報をするよう求めています。特に高齢世帯等に対しては、インターネット以外の多様な情報発信手段による情報提供に努めることや、情報の受け手である住民の防犯活動が促進されるよう、事件の発生場所や時間に加え、被害を防ぐための具体的な防犯対策についても情報提供するよう求めています。

今回の件では、警察側からの情報が十分ではなく、また、初めてのケースであり、市としても対応に苦慮したとは思いますが、今回の件を教訓として、市民の生命・財産を守るため、市と警察との連携をより一層強化して行くことを強く要望しました。

平成29年度各会計当初予算

一般会計 179億5,300万円(前年対比 3億8,300万円、2.2%の増)
(財政調整基金の取り崩し額は約7億687万円)

特別会計 130億8,792万2千円(前年対比 20億113万円、13.3%の減)

市はこれまで、市税の徴収率の向上、ふるさと納税の推進、国や県からの財源調達に加え、人件費の削減や既存事業の見直しによる歳出削減に取り組んで来ましたが、人口減少による市税収入の減少、高齢化率の上昇による扶助費などの経常的支出が増加し、財政の硬直化が進んでいます。今後も『第三中学校の耐震化』、『学校給食センターの老朽化対策』、『清掃センターの大規模改修』、『船形バイパス』などの大規模事業を控えています。このような厳しい財政状況の中、『第三中学校の耐震化』の基本設計が予算計上され、また、様々な子育て支援事業、地域公共交通網形成計画の策定、高齢者福祉や防災対策、観光振興のための予算など、財政状況が厳しいなりに編成されていることから、私は当初予算案に賛成しました。3名の議員が反対しましたが、賛成多数で原案通り可決されました。

通学路の安全対策について

児童生徒の通学路となっている、市道1008号線の安全対策については、昨年(平成27年)の第3回、および、第4回定例会において繰り返し要望し、昨年(平成27年)の第4回定例会の行政一般質問で、『市役所の駐車場の一部を歩行者のための安全な歩行スペースとして、新学期が始まるまでに整備する』という答弁を頂きました。4月初めには下の写真のように工事が完了し、新学期から子どもたちが安全に登下校できるようになりました。市内にはまだ通学路として危険な場所がありますので、引き続き通学路の安全対策を推進していくよう求めて参ります。



おわりに

市議会議員になってからの7年間、毎回一般質問で登壇して様々な提案や要望を行い、『防災ラジオの導入』、『こども医療費助成の中学3年生までの延長』、『学童保育の充実、預かり保育の実施』、『健幸ポイント事業の導入』、『社会体育施設の充実』などを実現できました。任期も残り1年となりましたが、引き続き皆様のご意見・ご要望を市政に反映して参りたいと考えておりますので、どのようなことでも遠慮なくお申し付けください。